

Q.いつからAIや機械学習に興味を持ちましたか？その理由は？

A. 機械学習自体を始めたのは大学2年生か3年生くらいからですね。人が作り込むようなものも面白いとは思いますが、それには限界があります。機械に出来ることがあるなら機械にやらせてもらおう、自動化しようと僕は考えています。機械学習の導入により、**自動化できることの幅が大きく広がる**と思い、興味を持ち始めました。

Q.そもそもAIとは、どんなものなのでしょうか？

A. AI自体、明確な定義があるわけではないのですが、**人が行っていることをコンピュータ上で行う**ことです。一般的に、**強いAI**と**弱いAI**というものがあって、**強いAI**というのは、映画の中などで人が想像するような、人間と同じようなことが何でもできるというものです。例えばアトムとか、ドラえもんとかターミネーターとか、複数の機能を持ち合わせたもののことです。**弱いAI**は単機能のものをいいます。アルファ碁とか自動運転とか。**強いAI**はまだまだ先の話だと思います。



▲こういうのは、まだまだ先。
ハルオのAIだと怖いですよ

僕が研究しているのは、**AIの一つである機械学習**で、物体認識の分野になります。

機械学習自体、範囲が広くて、**翻訳や音声認識、物体認識**だったり。そういったものを、まとめてAIという総称で呼んでいます。音声認識も、実用化されているレベルまで精度が上がってきていますね。

Q. 今後、AIはどのように発展すると思いますか？

A. 音声認識も物体認識も、それぞれの分野で発展していくのだろうけれども、その中でもこれから、より注目されるのは**機械翻訳**の分野だと思います。あと、オリンピックも控えているため、防犯に使われそうな分野として、**物体検出**とかもあがっていくかなあ。

これは僕の意見ですが、機械翻訳は、今後伸びるであろう重要な分野だと思います。機械翻訳がうまくいくと、言語を問わずデータを使用できるので、使えるデータが大幅に増えます。グーグルの翻訳も、去年あたりから新たな機械学習のアルゴリズムを入れて、精度がすごく良くなっています。

機械学習というのは、**データ自体を与えてやるもの**で、そのデータをつくるのは辛いです。(笑)面白い先に行くために、その辛い作業を抜け出したい一心、という感じでやっています。その後の物体検出自体のモデルを作るほうが絶対に楽しいのですが、そのためにはデータがないと...(笑)

結局、いくら性能のいいアルゴリズムがあったとしても、データが作れなければ動かないので。

僕自身...は、将来まだどうするかわかりませんが。

根底の技術を追って行きたい思いはあります。

そもそも自動化するためにはどうすればいいのか、という技術ですね。

作る、というのは範囲が広くて、材料から選ぶ人もいますし、

あるものを組み合わせて作ってしまえという人もいます。

僕はどちらかという...その間でウロウロしているような感じ。(笑)

どちらも今はやっていきたいなど。

これ、という感じでは答えられないのですが、

でも総じて、ものづくりの分野には居ると思います。



——AIの精度が上がっていても、
『そうぞうする』ということは難しい、たぶん出来ないです。
create (創造)もimagine (想像)も。

Q. AIについて藤武さんは
どう考えていますか？

A. 僕は、“人がやらなくていいこと”の
自動化をしていきたいです。

AIの精度が上がっていても『そうぞうする』
ということは難しい、たぶん出来ないです。
クリエイト(創造)もイマジン(想像)も。

以前、東ロボ君という、AIの技術を使ったプログラムで東大の試験に合格させようという
プロジェクトがあって。数学の問題などは解けていたのですが、
文章を解釈した上で答えるというような問題に関しては、まだだめだね、と。
結局、そのプロジェクトは、その先やっても意味がないので終わったのですけど。

逆に言うと、人がやるべきところというのは、創造だったり解釈したりという部分で。
数学だったら新しい式を考えるとか、そういうものも含めて創造すること。
それ以外の作業は、機械で自動化だったり効率化だったりできる。
自動化や効率化ができる部分の、人の負担をどうにか減らしていきたいなあと思っています。



——世間には、AIが仕事を奪うという話もありますが。
実際、完全にそうなるかという点、たぶんそうはならない。

逆に差別化できるところはけっこうあるなと思っています。

例えば料理をある程度自動化する。

それを更に芸術のレベルまで食事を作れる、新しいレシピを作り出せる、
そういう**価値の創造**ができる職人は必要なわけです。

つまり、ある程度おいしいハンバーガーが機械に任せて食べられます。

食事を普通に摂りたいだけだったら、それを摂ればいい。

ただ、私のほうがもっと美味しいハンバーガーを作れるぜという人が出てきたときに、
その人の価値が上がる。それが**差別化**です。

たぶん、職業自体、なくなるものはそんなにないと思います。

いろいろ考えてる人は、という条件がついてしまうかもしれないんですけど。むしろ、
何かを作ろうとしている人にとっては、差別化できるいい機会なのかなと考えています。



——機械に任せて、一律にある程度のこと自動的に行えば、
それ以上のものを作り出すか、もしくは機械が出来ないところを
やる職業も増えていく可能性があります。

ある程度、自動化が出来た上で、どう差別化していけるのかというのが、
これからの社会に必要なのかなと思います。